



地域の町医者的存在になりたい 困りごとがあったときにまず相談 してもらいたい 必要に応じて専門家を紹介していく、 よろず相談室

村下 知宏 (むらした ともひろ) さん

行政書士

1987年浦河町生まれ。大学卒業後、東京都奥多摩町にて仲間3人で地域づくりに挑戦。その後地域活動をサポートする会社に勤務した後、浦河町に24歳で戻る。2013年地域おこし協力隊事業のコーディネーターや地域の団体・事業者の活動支援を行う会社を設立。その後、行政書士資格を取得し2023年に、ほどく行政書士事務所を開設。

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。31回目となる今回は、浦河町にUターンし、中小企業・個人事業主・非営利団体の補助金申請や事業計画作成支援などに真正面から向き合う、若き行政書士の村下知宏さんです。

高校卒業後、首都圏の大学に進学したとお聞きしました

当時は浦河町を退屈だと感じ、「とにかく町の外に出たい！」と道外の大学だけを受験しました。大学時代は「社会起業」という言葉が生まれた時代でもあり、その影響もあって、地域活性や環境問題に取り組む会社のインターンシップに出会いました。多彩な分野で挑戦する大人に出会ったこともあり、卒業後はそこで

出会った仲間二人とアルバイトをしながら地域に飛び込みました。

いきなり移住したのですね

『勝手に地域おこし協力隊』みたいな感じでしたね。ただ、思いつく限りの企画に端から挑戦したのですが、まだまだ未熟でなかなか形にできずに悪戦苦闘していました。逆に地域の方に助けていただくことばかりでした。そんな中、インターンシップでお世話になった会社の方が、プロジェクトを手伝わないかと助け船を出してくれました。仕事内容は地域活動団体の支援をするというもの。地域おこし協力隊の中間支援をはじめ、地域で活動するさまざまな団体や会社のサポート現場に携わりました。

会社とは期限付きの契約でしたが、退職後も地方で頑張る人たちと関わる仕事をしたいと考えていました。そんな中さまざまな町や村を見的过程中、高校生の

ころには退屈な場所だと思っていた浦河町が、自分に合うのではないかと感じはじめました。そして、同級生のご両親が地域の姿を発信する新聞を送り続けてくれたことも決め手でした。その誌面で、浦河町がいち早く体験移住に取り組んでいることや、魅力的なお店を起業する方の姿を知りました。「自分の故郷だから戻った」というより「自分に合う町かも」「エネルギーのある魅力的な町だな」といった、Iターン者が町を選ぶ感覚に近かったかもしれません。

そして、2012年に浦河町に戻られたのですね

戻ってすぐに、町内の経営者や、社会福祉法人関係者、農業者、自治体などで構成する団体の活動に参画させてもらいました。農林水産省の補助事業を活用した、都市部の人材を受け入れる事業「田舎で働き隊」に携わりました。翌年の2013年には、浦河町が初めて取り組んだ、「地域おこし協力隊の運営サポート」を受託しました。

地域おこし協力隊サポートで気にしていたことは？

地域の都合で活動してもらうのではなく、協力隊員が自身のアイデアや夢を実現することで、結果的に町に刺激を与えられたらと考えていました。浦河町役場とも、そのスタンスを共有できたことは、非常にありがたかったです。それでも自治体の担当者は、立場を踏まえた発言をしなければならず、個々人の情熱や想いが隊員に伝わらないことがままあります。「背景にはこういう理由があるはずだよ」と協力隊員に伝えていました。その反対に、言葉足らずでうまく伝わらない協力隊員の想いを翻訳して、役場や町の人に折に触れて伝えることにも心を砕きました。

行政書士としての活動をスタートしましたね

役場が自立的に協力隊事業を運営する体制が構築できたので、2021年を最後に浦河町地域おこし協力隊のサポート業務が終了しました。自治体と二人三脚の、中間支援組織的な立ち位置から、改めて自分で商品やサービスを販売して稼ぐ、民間事業者としてリスタートすることにしました。これまでの経験や得意分野を

活かすには、行政書士ではないかと数年前から考えていたのです。

自分がサポートすることで、もっと前進できる人がいる

浦河町に戻ってから、起業やイベントの企画、ボランティア団体の設立など、さまざまな形で町のために挑戦する人達に出会いました。どなたも凄まじいやる気と行動力で取り組み、町を前進させる原動力となっています。その一方、その挑戦が家族と過ごす時間や、わずかな自分のための時間をも削ったうえで成り立っていることも知りました。そうした状況を改善するために、申請書や企画書を作る、事務手続きをサポートするという、「ディフェンス役」を担えればと考えています。地域の人たちが安心して挑戦できる環境づくりをすることで、浦河町をはじめ小さな町の役に立ててればと思っています。

今後に向けてどのように考えていますか？

書類の作成や事務代行にプラスアルファの価値を提供していきたいです。例えば得意分野である補助金の支援業務。申請書を書くだけではなく、よりよい事業のためのアイデアを提案したり、お客様の長期的な利益にならないと考えれば、申請自体の取りやめも提案したりします。これまで集落活性や観光などさまざまな事業に携わってきた経験を活かしています。また、オンライン支援の環境も整ってきたので、全国各地の事業者や自治体など「小さな町で頑張る人」のサポートをしていきたいですね。

(2024年10月取材)

インタビュー後記

村下さんに初めて会ったのは、11年前の夏でした。どうして浦河町の地域おこし協力隊員たちは生き生きと活動できるのだろうと疑問を持っていた私の前に現れたコーディネーターは大学生にも見える若者でした。その後サイクルツーリズムやインバウンド向けプロモーションビデオ制作と一緒に取り組みました。地域のステークホルダーと調和を取りながら実績を積み重ねる、すごい人です。
かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表